

ソフランシール™ EX



SOFLANSEAL EX

ソフランシールEXは、環境規則に対応する工法です。

- 
- A hand is shown blowing bubbles against a clear blue sky. Several translucent bubbles of different sizes are in motion, some near the hand and others further away. The overall scene is bright and airy.
- ① 特定化学物質障害予防規則非該当
 - ② 脱TXフリー
 - ③ 厚生労働省・文部科学省の規則に対応
 - ④ シックハウスF☆☆☆☆に対応

製品を組み合わせることにより、環境規則に対応する工法が選択出来ます。[P.12の対応表参照]

ソフランシールEXの製品紹介

ソフランシール EX



- JISA6021 ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)一般用
- 特定化学物質障害予防規則非該当
- 1 : 2 配合のウレタン塗膜防水材
- 色調：グレー
- 硬化物密度：1.4 Mg/m³

- 荷姿：主剤6kg / 角缶、硬化剤12kg / 角缶
- シーズンタイプ：一般用(S)、冬用(W)

(注) 硬化剤を使用前に混合してから使用してください。

ソフランシール EX 立上り



- JISA6021 ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)立上り用
- 特定化学物質障害予防規則非該当
- 1 : 2 配合のウレタン塗膜防水材
- 色調：青緑色
- 硬化物密度：1.4 Mg/m³

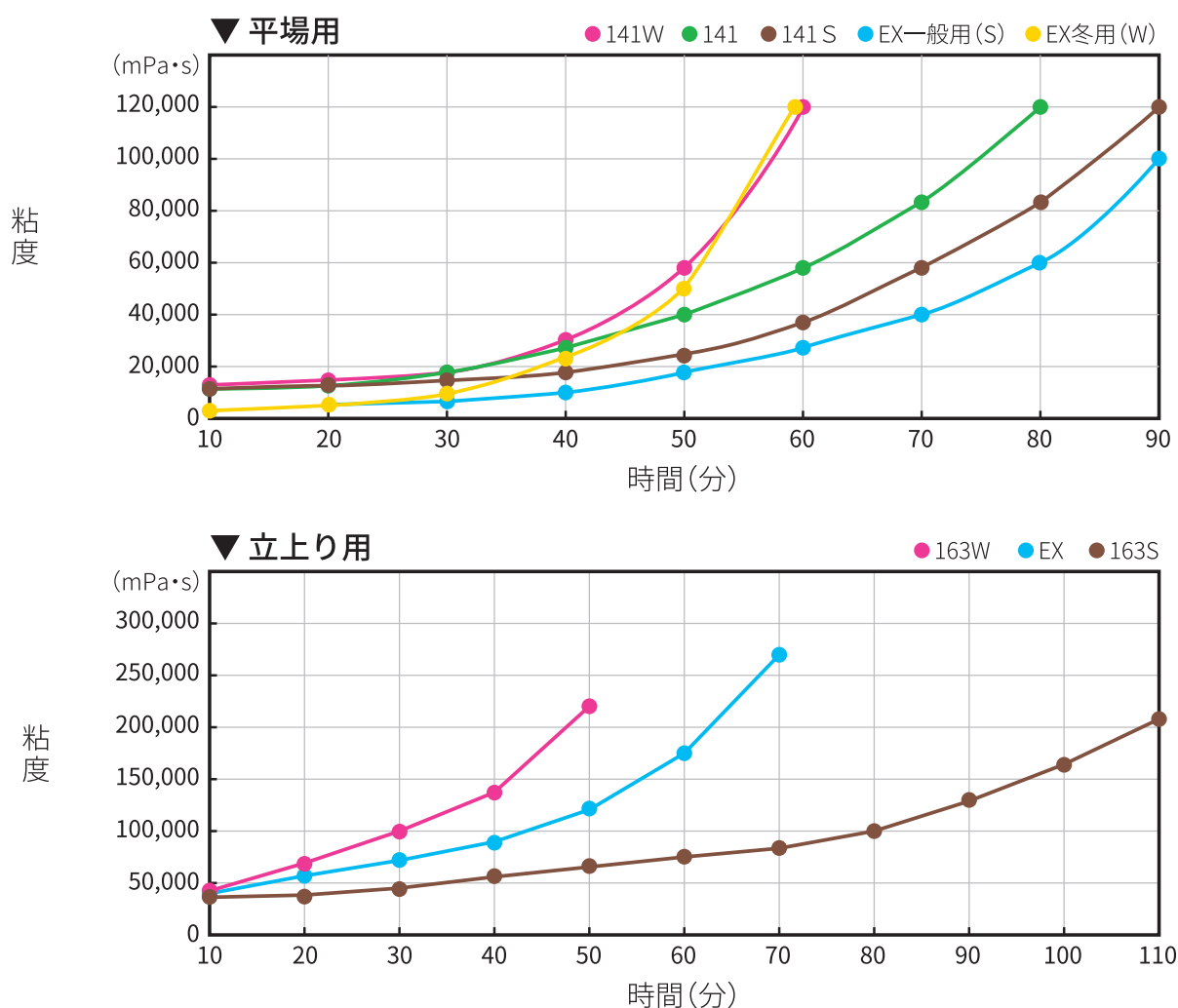
- 荷姿：主剤6kg / 角缶、硬化剤12kg / 角缶
- シーズンタイプ：オールシーズン

(注) 硬化剤を使用前に混合してから使用してください。

硬化性について

ソフランシールEXは、2シーズンのタイプを設定しており、施工環境にあった防水材の選択により、低温条件でも硬化性が良好で、塗膜表面のベタツキも少なく、翌日の作業が出来る防水材です。

可使時間 [当社屋内社内試験 測定温度条件:25℃]



低温硬化性 [当社屋外社内試験:気温15℃日陰、翌朝10℃]

条 件	EX 一般用(S)	従来品(M)	EX(W)	従来品(W)
可使時間 (25℃ 10万mPa・s到達時間)	90分	70分	50分	55分
硬度発現[ショアーA] (18時間後)	A30 ○	A40 ×	A43 ○	A30 ×

(注) ○：硬度計の針の穴があかない。 ×：硬度計の針の穴があく。

ソフランシールEX 特性値

液特性

試験項目	ソフランシールEX		ソフランシールEX 立上り	
種 類	主 剤	硬化剤	主 剤	硬化剤
タイプ	2シーズン[一般用(S)、冬用(W)]		オールシーズン	
配合比	1	2	1	2
外 観	淡黄色透明液体	粘稠液体(グレー)	淡黄色透明液体	ペースト状(青緑色)
粘度(mPa・s/25℃)	6000±2000	3500±1500*	7000±2000	ペースト状
可使時間(分/25℃)	一般用(S):90、冬用(W):50		60	

(注) *ソフランシールEXの硬化剤の粘度は、主剤と硬化剤を混合し、5分後の粘度

製 品 名	危険物分類・指定可燃物	危険等級	引火点	指定数量
プライマーU-002T(α)、U-006、ME、PW、ウレタン専用希釈剤	4類第一石油類	Ⅱ	21℃未満	200L
ソフランシールエコ専用希釈剤、TLトップ主剤、硬化剤、EXTトップ主剤、硬化剤	4類第二石油類	Ⅲ	21℃以上、70℃未満	1000L
ソフランシールEX主剤、ソフランシールEX硬化剤、ソフランシールEX 立上り主剤	4類第三石油類	Ⅲ	70℃以上、200℃未満	2000L
ソフランシールEX 立上り硬化剤	指定可燃物 (可燃性固体類)	—	—	3000kg

塗膜特性

試験項目			JISA6021：2011	外部機関での試験結果	
			屋根用 ウレタンゴム系 高伸長形（旧Ⅰ類）	ソフランシール EX	ソフランシール EX 立上り
引張性能	引張強さ N/mm ²	試験時温度 23℃	2.3以上	5.0	6.6
		試験時温度 −20℃	2.3以上	12	14
		試験時温度 60℃	1.4以上	2.8	4.1
	破断時の伸び率 %	試験時温度 23℃	450以上	760	830
	抗張積 N/mm	試験時温度 23℃	280以上	760	1100
		破断時のつかみ間の 伸び率 %	試験時温度 23℃	300以上	480
	試験時温度 −20℃		250以上	460	470
	試験時温度 60℃		200以上	360	500
引裂性能		引裂強さ N/mm	14以上	21	22
加熱伸縮性能		伸縮率 %	−4.0以上 1.0以下	−0.2	−0.2
劣化 処理後 の引張 性能	引張強さ比 %	加熱処理	80以上	92	83
		促進暴露処理	60以上	74	76
		アルカリ処理	60以上	87	104
		酸処理	80以上	87	103
	破断時の伸び率 %	加熱処理	400以上	800	890
		促進暴露処理	400以上	680	800
		アルカリ処理	400以上	760	790
		酸処理	400以上	740	780
伸び時の劣化性状		いずれの試験片にも ひび割れ及び 著しい変形が あつてはならない	ひび割れ及び著しい 変形はなかった	ひび割れ及び著しい 変形はなかった	
			ひび割れ及び著しい 変形はなかった	ひび割れ及び著しい 変形はなかった	
			ひび割れ及び著しい 変形はなかった	ひび割れ及び著しい 変形はなかった	
たれ抵抗性能		たれ長さ mm	いずれの試験体も 3.0以下	—	0.0
		しわの発生	いずれの試験体にも あつてはならない	—	しわの発生なし
固形分 %		主剤	表示値±3.0(表示値96)	97.5	97.4
		硬化剤	表示値±3.0(表示値97)	98.1	99.2
硬化物密度 Mg/m ³			表示値±0.1(表示値1.4)	1.3	1.4

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

公共建築工事標準仕様書「平成31年版」対応工法

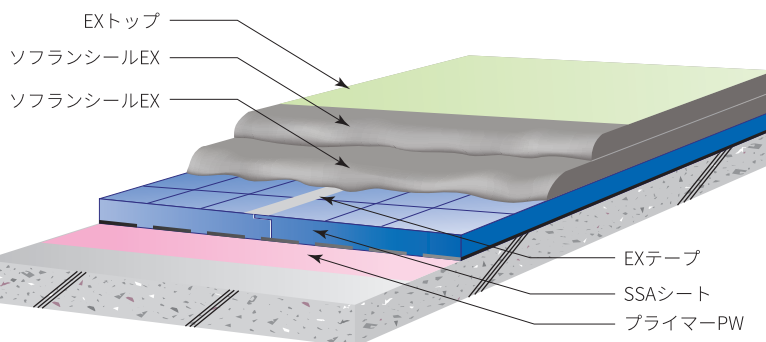
ソフランシールEX工法 [X-1、X-2仕様]

単位：使用量 (kg/m²)

工 程	1	2	3	4	5
X-1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ^(注5)	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	仕上塗料塗り ^(注6)	—
	0.3	3.0 ^{(注1)(注4)}		—	—
X-2	プライマー塗り	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り 補強布張り	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	仕上塗料塗り ^(注6)
	0.2	0.3 ^(注1)	2.7 ^(注1) (1.7 ^{(注2)(注4)})		—

(注1) 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以外の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 2. 立上り部は全て、種別X-2とし、工程3及び工程4を()内とする。
 3. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りについては、1工程あたりの使用量を、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合、平場は2.0kg/m²、立上りは1.2kg/m²を上限として変更することができる。
 4. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りは2回以上に分割して塗り付ける。
 5. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
 6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は、主材料の製造所の仕様による。

SSA-X-1-EX工法

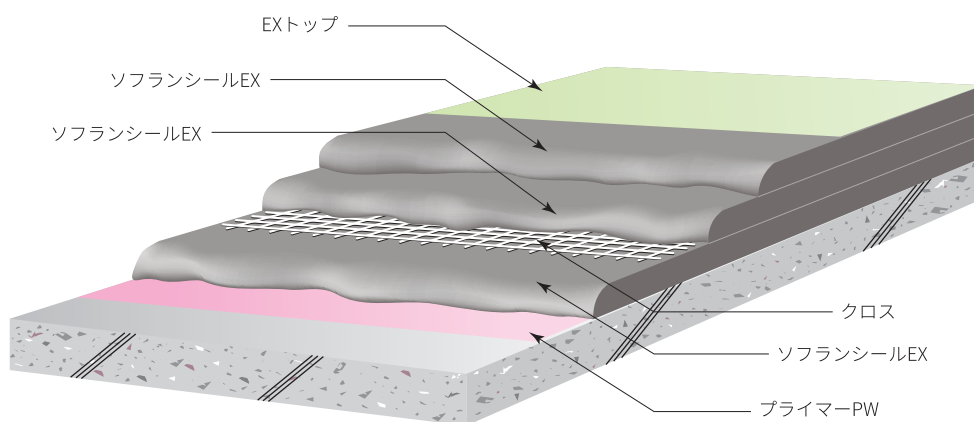


単位：塗布量 (kg/m²)

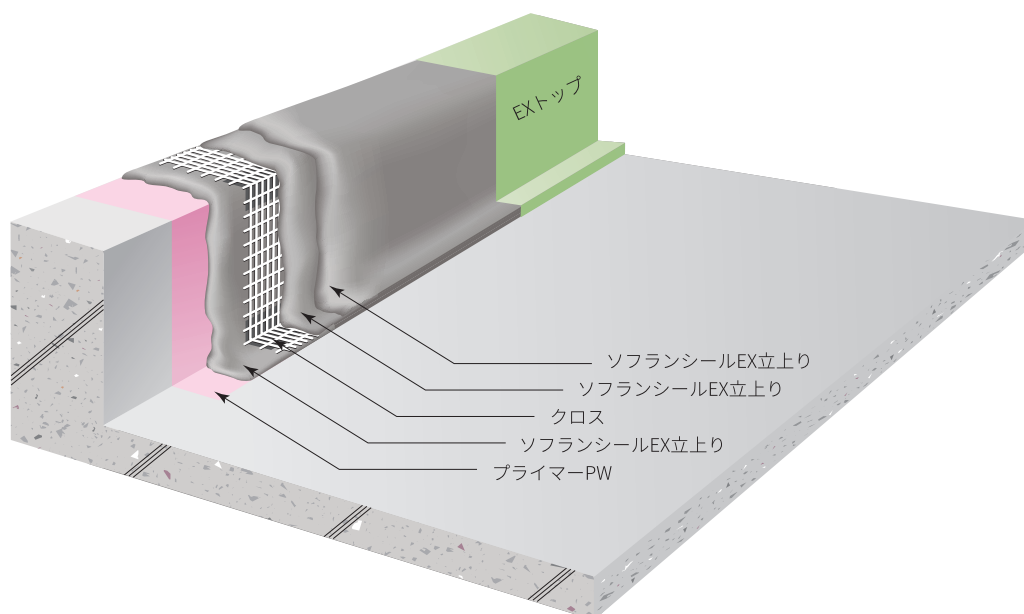
工 程	1	2	3	4	5	6
SSA-X-1-EX	プライマーPW	SSAシート	ソフランシールEX	ソフランシールEX	EXトップ	—
	0.2	—	2.2	2.0	0.2	—

- (注意事項)
- プライマー及び保護塗料の種類を選択することにより、環境規制に対応した工法の選択が可能です。
 - 工法、詳細図、施工方法等については、ソフランシールのカタログを参照してください。

X-2-EX工法



X-2V-EX工法 [X-1、X-2 共通]



単位：塗布量 (kg/m²)

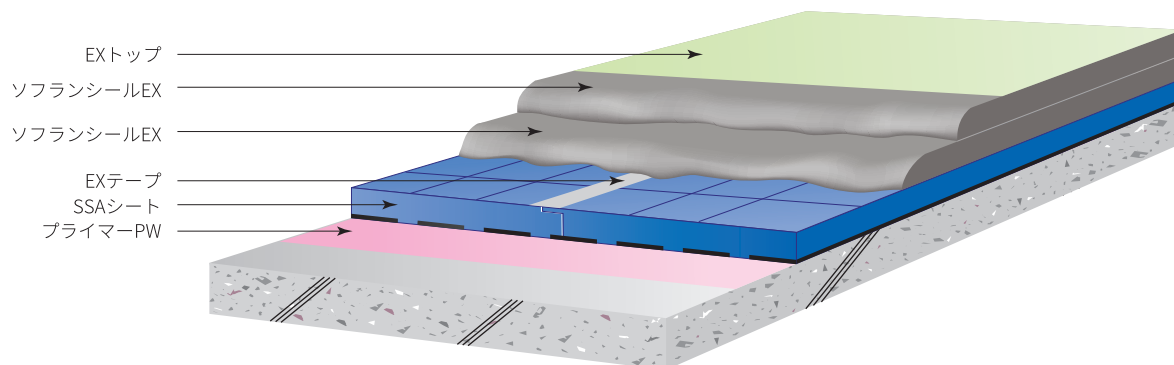
工 程	1	2	3	4	5	6
X-2-EX	プライマーPW	ソフランシールEX	クロス	ソフランシールEX	ソフランシールEX	EXトップ
	0.2	0.5	—	2.0	1.7	0.2
X-2V-EX	プライマーPW	ソフランシールEX立上り	クロス	ソフランシールEX立上り	ソフランシールEX立上り	EXトップ
	0.2	0.4	—	1.3	1.1	0.2



- プライマー及び保護塗料の種類を選択することにより、環境規制に対応した工法の実施が可能です。
- 工法、詳細図、施工方法等については、ソフランシールのカタログを参照してください。

通気緩衝工法

SSA-UN-EX工法

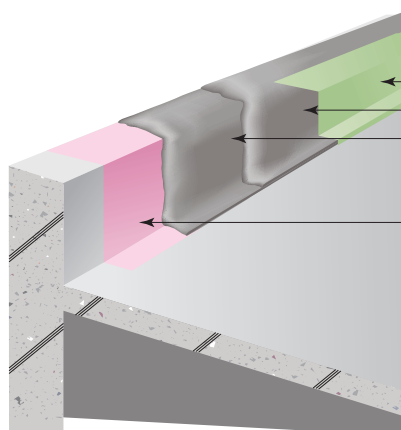


単位：塗布量 (kg/m²)

工 程	1	2	3	4	5
SSA-UN-EX	プライマーPW 0.2	SSAシート —	ソフランシールEX 2.2	ソフランシールEX 2.0	EXトップ 0.2

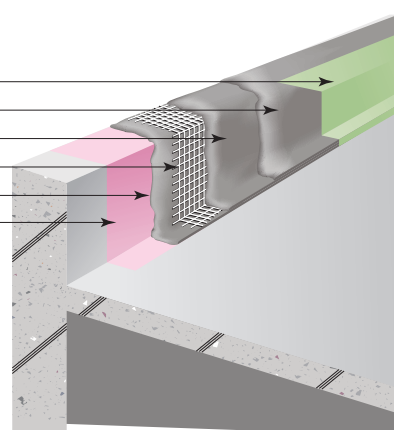
立上り工法

UV-28-EX工法



UVC-28-EX工法

EXトップ
ソフランシールEX
ソフランシールEX
クロス
ソフランシールEX
プライマーPW



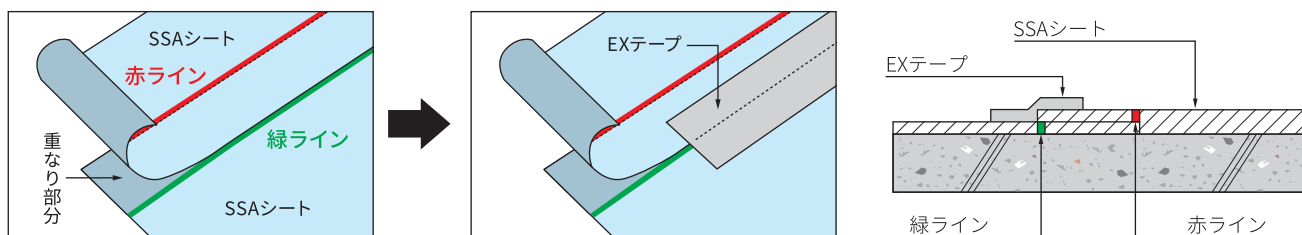
単位：塗布量 (kg/m²)

工 程	1	2	3	4	5	6
UV-28-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 1.4	ソフランシールEX 1.4	EXトップ 0.2	— —	— —
UVC-28-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 0.3	クロス —	ソフランシールEX 1.5	ソフランシールEX 1.0	EXトップ 0.2



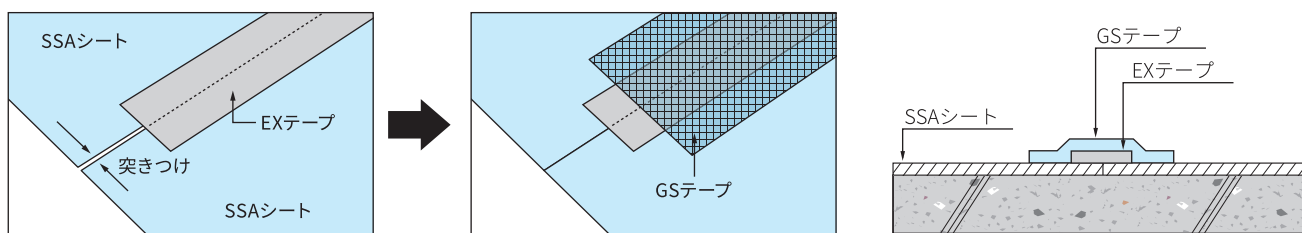
- 保護仕上材は、使用目的に応じて選択することができます。
- UV工法では必要に応じて入隅部にクロス補強を行ってください。

[長辺部の処理]



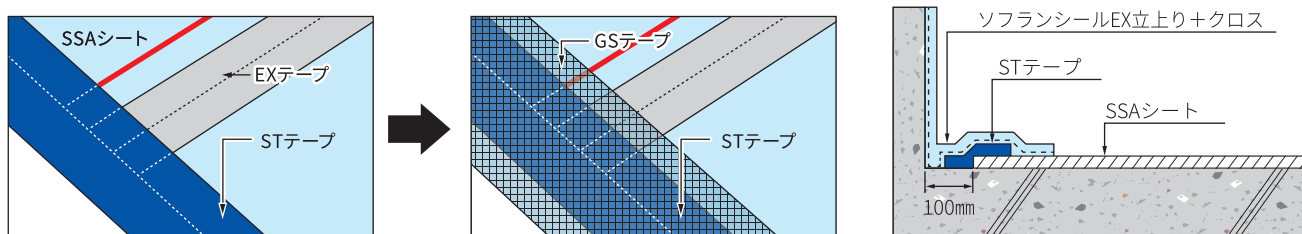
- ①SSAシートの上側のシートの末端を下側の緑ラインに合わせて張り付けます。
- ②重ね張りした長辺部にEXテープ(灰色テープ50mm幅)を均等に張り付けます。

[短辺部の処理]



- ①短辺部は、突きつけとしSSAシート同士のすき間は5mm以内とします。
SSAシートが重なった箇所をカッター等で取り除きます。
- ②EXテープを均等に張り付け、ゴムローラー等で転圧をします。
- ③その上からGSテープ(またはクロス)を張り付けます。

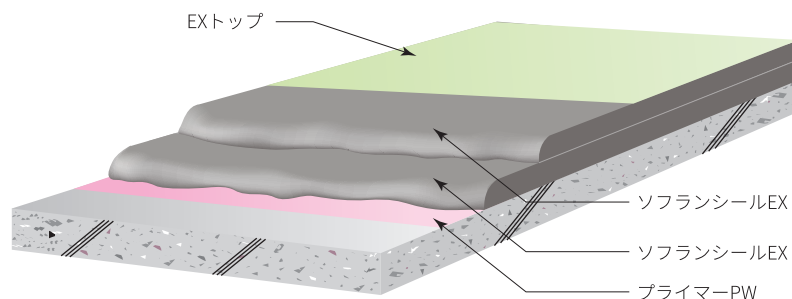
[端末部の処理]



- ①SSAシートの端末(周囲)にSTテープ(黒色のブチルテープ)を張り付け、ゴムローラーで転圧します。
- ②立上り部にクロス補強を行う場合は、クロスGSまたはPCを張り下げて補強処理を行ないます。
- ③立上りのない場合や立上り部にクロスを用いない場合は、GSテープを使用し、STテープの中心から均等に張り付けます。

密着工法（補強クロスなし）

UN-EX工法



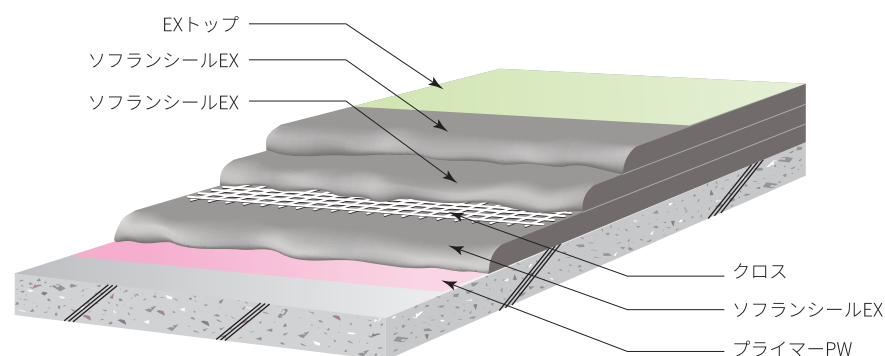
単位：塗布量 (kg/m²)

工 程	1	2	3	4
UN-28-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 1.4	ソフランシールEX 1.4	EXトップ 0.2
UN-42-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 2.2	ソフランシールEX 2.0	EXトップ 0.2

（ 注意事項 ） ■ プライマー及び保護塗料の種類を選択することにより、環境規制に対応した工法の選択が可能です。
 ■ 工法、詳細図、施工方法等については、ソフランシールのカタログを参照してください。

密着工法（補強クロスあり）

UNC-EX工法



単位：塗布量 (kg/m²)

工 程	1	2	3	4	5	6
UNC-28-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 0.3	クロス —	ソフランシールEX 1.4	ソフランシールEX 1.1	EXトップ 0.2
UNC-42-EX	プライマーPW 0.2	ソフランシールEX 0.3	クロス —	ソフランシールEX 2.1	ソフランシールEX 1.8	EXトップ 0.2

ソフランシールEX製品一覧表

品 名		特 性	標準 荷 姿	用 途
防水材	ソフランシール EX	ウレタン防水材 2液反応硬化形(配合比 主剤1:硬化剤2) JISA6021ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類)一般用	主剤:6kg/角缶 硬化剤:12kg/角缶	密着工法 複合通気緩衝工法用防水材
	ソフランシール EX 立上り	ウレタン防水材 2液反応硬化形(配合比 主剤1:硬化剤2) JISA6021ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類)立上り用	主剤:6kg/角缶 硬化剤:12kg/角缶	密着工法用・立上り工法用防水材
プライマー	プライマーPW	ウレタン系プライマー(弱溶剤系1液湿気硬化形)	16kg/角缶	RC、モルタル、塗継ぎ用
仕上塗料	EXトップ	アクリルウレタン系2液保護仕上げ材(弱溶剤系) 2液反応硬化形(配合比 主剤2:硬化剤3)	主剤:6kg/角缶、硬化剤:9kg/角缶	保護仕上げ材 骨材別添タイプ
副資材	クロスGS	補強布 ガラスクロス	0.19mm厚×1.04m幅×100m長/巻	補強・膜厚確保用クロス
	クロスPC	補強布 ポリエステルクロス	0.35mm厚×1.02m幅×50m長/巻	補強・膜厚確保用クロス
	GSテープ	補強テープ 粘着材付ガラスクロス	100mm幅×50m長/巻	端末処理・補強テープ
	SSAシート	特殊フィルム/改質アス含浸シート/自着層付シート	1.4mm厚×1.04m幅×15.7m長/巻	SSA工法用通気緩衝シート
	EXテープ	粘着剤付ポリエステルフィルムテープ	0.05mm厚×50mm幅×50m長/巻	SSAシートジョイント用 補強テープ
	STテープ	補強テープ 特殊繊維フィルム/ブチル粘着剤付テープ	0.50mm厚×75mm幅×25m長/巻	複合通気緩衝工法(SSA)用 端末処理テープ
	ベントSU	ステンレス製(SUS304) 脱気筒	2個入り/箱	複合通気緩衝工法(SSA)用脱気筒
	ソフランシール エコ専用希釈剤	弱溶剤系	14kg/角缶	希釈剤(受注生産)
	水切りテープ	ガラス繊維(粘着剤付) 剥離フィルム(PP透明セパ)	50mm幅×50m長/巻	パラペットアゴ下水切りテープ

製 品	特化則非該当	有機則非該当	室内濃度指針	学校関係衛生法	F☆☆☆☆
プライマーU-002T(α)	○	×	×	×	○
プライマーPW	○	○	○	○	○
プライマーU-006	○	×	×	×	○
プライマーME	○	×	×	×	○
ソフランシールEX	○	○	○	○	○
ソフランシールEX 立上り	○	○	○	○	○
TLトップ	○	×	○	○	○
EXトップ	○	○	○	○	○
ウレタン専用希釈剤	○	×	×	×	—
ソフランシールエコ専用希釈剤	○	○	○	○	—

以下は、有機則規制に対応していません。

プライマー	プライマーU-002T(α)	ウレタン系プライマー(溶剤系1液湿気硬化形)	15kg/角缶	一般コンクリート・モルタル下地用、SSAシート用プライマー
	プライマーU-006	ウレタン系プライマー(溶剤系1液湿気硬化形)	4kg/角缶	塗り重ね(層間用)、既存ウレタン塗り重ね用、塩ビ下地用
	プライマーME	ウレタン系プライマー(溶剤系1液湿気硬化形)	4kg/角缶	金属下地用(アルミ、ステンレス、トタン、鉄、鉛)
仕上塗料	TLトップ	アクリルウレタン系保護仕上材 2液反応硬化型弱溶剤系 (配合比 主剤1:硬化剤1)	主剤:7kg/角缶 硬化剤:7kg/角缶	保護仕上材弱溶剤タイプ、骨材別添タイプ

設計上の注意事項 (防水業者にご相談ください)

- 防水以外の目的で使用される場合は、使用目的を事前に防水業者とよく打ち合わせて、仕様を決定してください。
- 下地（デッキプレート、PCa、コンクリート等）の動きにより防水層にクラックやひび割れが入る場合がありますので、事前に構造等について防水業者とよく打ち合わせて仕様を決定してください。
- 下地の状態により防水層の仕上に影響を与えたり、下地が乾燥しにくい構造（デッキプレートコンクリート仕上げ、ポーラスな軽量コンクリート・改修工事=既設保護層を撤去しない場合）や工期が短く乾燥時間が十分に取れない場合などでは、防水層にフクレ等の不具合を生じることがあり、密着工法から複合通気緩衝工法に仕様変更を必要とする場合があります。事前に防水業者とよく打ち合わせて仕様を決定してください。
- 押えコンクリートや水分の多い下地、動きのある下地（デッキプレート、PCa等）への防水施工は、複合通気緩衝工法の仕様を選定してください。
- 下地は、コンクリートあるいはモルタル下地(金コテ仕上)とし、平滑で浮き・突起物などの欠損、エフロレッセンスのないようにしてください。新設の場合は、1ヶ月以上乾燥養生してください(下地は鏡面仕上にしないでください)。
- 貫通パイプ・ドレン等は、堅固に取り付け、下地と一体化させてください。
- ドレン部は、防水層の増塗りが必要です。増塗りしても排水できるように低めに勾配をつけてください。
- 横引きドレンについては、下金まで防水材を塗布する場合があります。ドレンの蓋と下金との納まりが約3mm以上余裕のあるものを選定してください。
- 出入隅の形状は、出隅は丸面あるいは面取りを必ず行ってください。入隅は直角とします。
- 下地の勾配は、1/100～1/20にしてください。
- 立上り途中で防水層を止める場合は、必ず水切りを設置してください。

施工上の注意事項 (事前に施工要領書・各材料説明書等をお読みください)

<天候について>

- ① 降雨、降雪時または降雨、降雪が予想される場合や降雨・降雪後、下地が未乾燥の場合は、施工を中止してください。
- ② 標準施工温度は10～35℃とします。最低施工温度は5℃です。
- ③ 湿度が80%を越える場合は、施工を中止してください。

<下地について>

- ① 下地は、十分に乾燥させてください。
- ② 下地のクラックは、ヒカットしてポリマーセメントモルタル、ポリマーセメントペースト、またはポリウレタン系シーリング材を充填してください。
- ③ 下地の突部や突起物は、サンダー等を用いて平滑にしてください。
- ④ 下地の素穴やへこみなどは、ポリマーセメントモルタル、ポリマーセメントペーストを用いて平滑にしてください。
- ⑤ レイタンスや表面強度のない下地は、サンダー・ケレン棒を用いて削り、強固な下地を出すか、下地調整材を用いて強固な下地を作ってください。

<作業環境について>

- ① 施工において、周囲では火気を使用しないでください。
- ② 室内の施工においては、十分換気に注意してください。換気の悪い場所では、有機溶剤用防毒マスク等を着用して適切に換気処置を取ってください。
- ③ 混合・攪拌する際は、保護マスクを着用し、皮膚に付かないように保護手袋や、眼に入らないように保護眼鏡を着用してください。
- ④ 施工後は、硬化するまで立入禁止としてください。

<施工上の注意>

- ① 配合比率を厳守し、適切な工具を用いて施工してください。
- ② 混合容器の底部に付着した混合液は、混合が十分でない場合があります。そのままかき出して使用せず、十分に攪拌し直すか、または使用を控えてください。
- ③ ソフランシールエコ専用希釈剤を使用する場合は、5%(重量比)以内としてください。
- ④ 防水材の施工後、ピンホールやフクレ等は、工程毎に補修処理をしてください。
- ⑤ 攪拌混合した材料は、硬化が進み増粘しますので、速やかに使用してください。夏場は、特に硬化が速くなりますのでご注意ください。

維持管理上の注意事項

- ① 6ヶ月毎に屋根や防水層面の清掃を行ってください。特に排水口回りと入隅部分の泥や枯れ葉等を除去してください。
- ② 定期的に次のような点検を行ってください。異常が認められた場合は施工業者に連絡し補修を行ってください。
☆保護塗料が薄くなっている箇所、ひび割れ箇所、剥離している箇所がないか。
☆防水層に亀裂、フクレ、剥離が生じていないか。
- ③ 保護塗料は、防水層の劣化を抑制し美観の維持・向上に効果があります。劣化状態に応じて5年毎に有償で保護塗料の塗り替えを行ってください。
- ④ 防水層の洗浄液には、家庭用中性洗剤以外の薬品は使用しないでください。酸・塩素系の洗剤は、防水層を変形・損傷させるおそれがあります。
- ⑤ 防水層の洗浄には、金属ブラシや金属タワシは使用しないでください。防水層に傷がついたり損傷するおそれがあります。柔らかい布やぞうきんで清掃し、十分に乾燥してください。

防水層利用上の注意事項

- 防水層の上を歩行する際には、靴底の柔らかい履物を使用してください。防水層を傷つけるおそれのあるハイヒール、スパイク等の履物は、使用しないでください。
また、粗面仕上になっている場合は、つまずくおそれがありますので走らずに、歩行には注意してください。
- 防水層の表面がぬれているときは、滑りやすいので注意してください。また、バルコニー等でモルタル仕上から露出防水へ改修工事を行った場合には、降雨時の雨水が浸透せずに防水層の上にたまり、自然乾燥するまでに時間がかかる場合があります。
- 防水層の上や付近では、花火やたき火等の火気を使用しないでください。飛び火によって防水層が燃焼、変質するおそれがあります。
- 防水層の上にタバコの投げ捨てやタバコの火種を落としたりしないでください。防水層が燃焼し変質して、穴が開き漏水するおそれがあります。
- 防水層の上に油・酸等の腐食性の液体や、化学薬品・ガソリン・灯油・塗料・溶剤・肥料等をこぼさないでください。また、ダクトや煙突からのミスト、油煙等の混じった排気のないようにしてください。防水層が変色・膨潤・劣化して防水機能を損なうおそれがあります。
- 防水層の上では、ペットの飼育をしないでください。動物の爪や歯で防水層に傷をつけ、汚物が防水層を劣化させるおそれがあります。

- 防水層の上に直接土を置き、植物を植えないでください。排水溝を詰まらせたり植物の根によって防水層を損傷させる場合があります。
- 防水層の上で激しい運動やゴルフの練習・自転車・一輪車等の運転をしないでください。タイヤや靴底のカートの荷重によって、防水層に損傷を与えるおそれがあります。
- 防水層の上には、運搬作業や設計時に予定した以外の重量物は置かないでください。重量物による防水層の変形や損傷のおそれがあります。
- 防水層の上に重量物やテーブル、椅子等を置いたりスノコ等を敷く場合は、接地部にゴム板などで保護・養生してください。ゴム板等で養生しないと、防水層に損傷を与えるおそれがあります。
- 防水層の上に重量物を落としたり、鋭角なもので傷つけないでください。防水層の変形や損傷のおそれがあります。
- 防水層の上で作業をする場合は、ベニヤ板等で養生してください。カッターナイフ等の使用は、防水層に損傷を与えるおそれがあります。避雷針・アンテナ・空調機器等を設置する場合は、防水層の上には直接設置せず、ゴム板等の下敷き材の上に設置してください。
- 防水層を新たに貫通させるような作業・機械機器の設置は、行わないでください。防水層に穴が開き、漏水するおそれがあります。クギやビス等の打ち込みは、行わないでください。

取扱い上の注意事項

- 製品は、「消防法」、「労働安全衛生法」、「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」並びに、それらの法規制を受けますのでこれらを理解し、安全に作業を行ってください（詳細については、P5、P12の商品別の項を参照願います）。
- 消防法上の危険物に該当する製品がありますので、取扱いを厳守し、保管管理をお願いします。
製品は、業務用に限定しておりますので、一般の方はご使用できません。防水施工は、専門業者にご依頼ください。

<事故防止の注意事項>

- ① 火気厳禁とし、火気を近づけたり火気のある場所で使用しないでください。
- ② 取扱う場所には、必要に応じて局所排気装置を設置してください。
- ③ 取扱い中は、適切な保護具（防毒マスク、ホースラインマスク、眼鏡、手袋等）を着用して作業を行ってください。

<応急処置>

- ① 眼に入った場合は、速やかに流水で15分間以上洗ってから眼科医の処置を受けてください。
- ② 皮膚に付着した場合は、大量の水とせっけんで洗い流し、また大量の蒸気を吸入した場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。
- ③ 飲み込んだ場合は、安静にし、直ちに医師の診断を受けてください。なお、無理に吐かせないでください。

<製品の使用上の注意事項>

- ① 製品を取扱う前に製品カタログ、安全データシート（SDS）等をよく読んで理解してから使用してください。
- ② 使用後の容器の潰し作業はあらかじめ養生してから行ってください。
- ③ 液がこぼれた場合は、ウエスでふき取るか、砂等で流出しないように吸い込ませ除去してください。
- ④ 主剤と硬化剤の混合比は、定められた配合比率を守ってください。他の製品と混合しての使用は、硬化不良の原因となります。
- ⑤ 小分けして使用する場合は、液を事前に攪拌混合してください。
- ⑥ 主剤と硬化剤等の混合作業は、電動攪拌機を使用して混合ムラがないように十分に攪拌混合を行ってください（3～5分間）。
- ⑦ 塗布作業は、金コテ・ゴムベラ等で均一に塗布してください。
- ⑧ 主剤と硬化剤を攪拌混合した液は、速やかに使用してください。
- ⑨ 作業着に付着した場合は、その汚れを落としてください。
- ⑩ 取扱い後は、手洗い、うがいを十分に行ってください。

<廃棄方法>

- ① 使用済みの空缶、材料の付着した手袋、ウエス、使用済みの溶剤等は、専門の廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- ② 容器内に出来るだけ液を残さないようにし、主剤と硬化剤とを混合して固めてから専門の廃棄物処理業者に委託して処理してください。

<保管方法>

- ① 消防法上の危険物は、法に従って保管してください。
- ② 危険物の保管には、数量により貯蔵の届け出、許可等の手続きが必要な場合があります。
- ③ 一定場所を定め、直射日光、雨の当たらないように保管してください。
- ④ 保管中はかならず容器を密閉し、日光、雨等に当たらないように保管してください。また、密閉した容器でも、容器とキャップの熱膨張・収縮の差によって湿気や降雨等の水分が製品内に入り異常反応する場合があります。高温多湿の場所や雨が当たる場所は避けて保管してください。
- ⑤ 屋外に保管する場合は、周囲をトタン板等不燃材で囲い、下に板・シート等を敷き、かつ全体を覆ってください。

ニッタ化工品株式会社

<https://www.nitta-ci.co.jp>

本 社	〒556-0022 大阪市浪速区桜川4-4-26	TEL 06-6563-1206
東京支社	〒162-0808 東京都新宿区天神町10番地 安村ビル	TEL 03-3235-1713
札幌支店	〒060-0809 札幌市北区北九条西3丁目19-1 ノルテプラザ6F	TEL 011-747-1040
東北支店	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 小田急仙台東口ビル6F	TEL 022-292-1855
中部支店	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23 ニッタビル2F	TEL 052-551-5611
四国支店	〒761-8071 香川県高松市伏石町2018-13	TEL 087-869-1595
九州支店	〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目4-7	TEL 092-411-8303
広島駐在	〒730-0042 広島市中区国泰寺2丁目2-5	TEL 082-535-3400

防水専用ホームページアドレス <https://nitta-roofing.com>

- 本カタログに掲載の内容は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- カタログと実際の色とは印刷の関係で少し異なる場合があります。
- カタログのイラストは特徴を示したものです。現物とは外観の差異があります。
- カタログの記載事項は一般的な取扱いおよび標準的な場合のものです。特殊な条件下では異なる場合もありますので別途ご相談ください。

ソフランシール EX のご用命は当店へ



ご注意

正しくお使いいただくために
ご使用前に必ず製品ラベルの注意事項
および弊社カタログをお読みください。

2018年9月作成 / 1809 3B SHO®A